

---

# 旅の中で

小泉アスカ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

旅の中で

### 【Nコード】

N4590P

### 【作者名】

小泉アスカ

### 【あらすじ】

主人公は母と父の敵を取るために旅に出た。  
そこで出会った一つの店。

## 妖しい国（前書き）

新しい小説始めました。

本当の気持ち・・・

は、終了しました。

ご愛読ありがとうございます。そして、これから旅の中でをよろしく願います。

## 妖しい国

俺は絶対に奴らを許さない。大好きだった父と母を殺したあの男も、その仲間も。

母さん、父さん、敵討ちに行ってきます。そう言い俺は家を出て、旅を始めた。

何日も歩いていると町が見えたので寄ってみる事にした。

道を歩いていると怪しげなお店が一つ俺の目に飛び込んできた。

少し怖かったが気になって俺はその店に入った。

すると、お店の人が奥から出てきた。

「おや？お客が来るなんて珍しい。気に入ったのがあったら言うてください。」

その店の人は夏なのに黒いぼろぼろのコートを着て、そのコートフードをかぶり、

首に紫色に怪しく光る宝石のついたネックレスをしていた。

小さい声で俺は、はいと返事をして店内を見て回った。

店にはたくさん怪しい物が置いてあり、少し怖かった。

それに、今、外は真昼で太陽が昇っていて明るいが、カーテンも何もないのに

この店だけ暗かった。

なぜだろうと考えながら商品を見ていたら一つ、俺の目を引く物があつた。

店の人が付けているネックレスに似ているが宝石っぽい所の色が透明だった。

俺はそれをもってさっきのお店の人の所へ行き、これがほしいと言

すると店の人が「これを選ぶとはお客さん、よっぽど変わってるのか、好奇心旺盛だね。」

うつすらと店に入る光が強くなりその店の人の口元を照らした。

一瞬見えた店の人の口は妖しく笑っていた。口の周りの皮膚はしわが多く、声の高さからおばあさんだと思った。

俺は金を払い店を出ようとしたら店の人が

「ちよいと待ちな。・・・お客さん、そいつは不思議な力を持っているという噂があるから注意するんだね。」

「不思議な力？」

俺は足を止め、店の人の方を見た。

「そう、不思議な力。」

「どんな力だ？」

「そうだねえ、町の人が言ってたから本当かどうかは知らないけど、・・・」

途中まで言い、店の人は黙った。

「?どうしました？」

急に黙ったので心配になり俺は聞いた。

「確か、その買った人の一番大切にしている物や人の名前を言うところから小人が出てくる

って言ってたよ。」

俺はありがとうと言い、店を出た。

10歩歩いて後ろを振り返ると、先ほどあつたはずの店が跡形もなく消えていた。

森の番人（前書き）

私の奴短いすね・・・  
スイマセン

## 森の番人

俺はあの妖しい国から出て、次の国に進む時に森の中で迷ってしまった。

「はあ、・・・ここどこだよ。どこへ行っても木、木、木。目印も何もない・・・どうしよう」

深いため息をついていると後ろからガサガサと音がした。

「！！・・・誰だ！！」

振り返るとそこには破けた赤い服に汚れたズボンをはいた人間が一人いた。

「お前はそこで何をしているのだ。ここは俺様の土地だ。勝手に入る事は許さない！」

急に腰から短剣を抜き俺に襲いかかってきた。カキインツ

俺は自分の持っていた剣でその男の短剣の攻撃を防いだ。

「何をするんだ！ここがお前の土地なんて俺は知らなかったんだ！」

「嘘をつけ！昔来た者も皆そう言っていた！最初は俺もそれを信じてもてなしたさ。」

だが、あいつらは裏切ったんだ。俺の家に火をつけ、俺を殺そうとした。

もう誰も信じられない。信じてても良いことなどない。」

そう言う男の首もとに俺は剣を触れる寸前で止め、考えた。

もしかしたらこの男は悪い奴ではないのではないか。

そう思い俺はその剣を男の首もとから離し、剣をおろした。

「！？・・・なぜだ、なぜ俺を殺さなかった。」

「だってお前が、悪い人には見えない。それにさっきの話を聞いていても、

何もお前は悪い事をしていない。そんな人を殺す事は出来ない。」

俺がそう言うと、その男は目から涙を一滴ながした。

そのしずくが腕につけているブレスレットについた。

すると、そのブレスレットが急に光りだした。

「何だ！？」その男は焦ってそのブレスレットを外そうとした。

その瞬間、ブレスレットから垂直に光りが飛んだ。

そして、「ああゝ！！やつと出られたよゝ。結構狭いんだよあの中。

ゝ

中から小さな人が出てきた。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4590p/>

---

旅の中で

2010年12月12日22時49分発行